

PFI事業における多様な効果を評価する手法について

令和6年3月29日
第13回事業推進部会



内閣府 民間資金等活用事業推進室

PFI事業の多様な効果の定量的評価標準化イメージ

- 事業の発案時に、コストカットのみではない**多様な効果を加味して事業性を判断**する必要。
- 「PPP/PFI事業における多様な効果に関する手引・事例集」の強化のため、PFI事業における**サービス水準向上（多様な効果）**を評価する定量的評価指標の標準化を検討。

- (VFMガイドライン)「VFM」(Value For Money)とは、一般に、「**支払に対して最も価値の高いサービスを供給する**」という考え方
- (プロセスガイドライン)民間事業者に委ねることにより、

ア **公共サービスが同一の水準**にある場合において事業期間全体を通じた**公的財政負担の縮減**を期待できること。 VFMガイドラインで提示

イ **公的財政負担が同一の水準**にある場合において**公共サービスの水準の向上**を期待できること。

【現状】「PPP/PFI事業の多様な効果に関する手引・事例集」に示す指標（抜粋）

多様な効果	指標例	客観的評価案	多様な効果	指標例	客観的評価案
サービス・利便性向上	コンテンツ充実	イベント開催数	地域経済波及効果	地域企業参画	地域企業割合
	ニーズへの対応	開館日数・時間		地域企業競争力	商品単価
業務効率改善	システム導入	作業効率化	地域内人流	賑わい創出	定住人口
	生産効率向上	生産量			公共交通利用者数

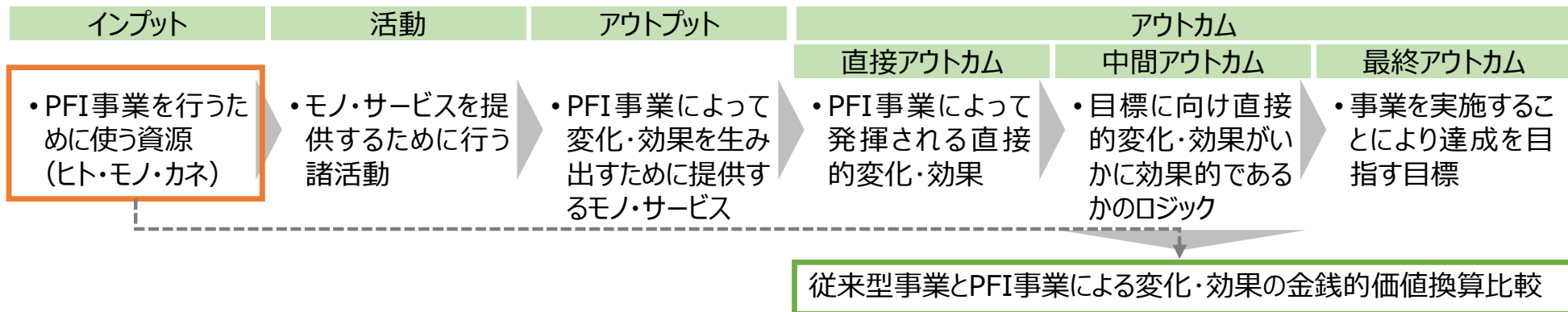
→手引・事例集では、客観的評価が一般化されていない点が課題として残されている。

● PFI事業の多様な効果の定量的評価標準化の検討スケジュール

	2023年度	2024年度	2025年度
多様な効果の定量化基礎調査	取組調査	類似制度整理	
定量的評価手法の作成		試行モデル作成 標準モデル作成	モデル修正
説明方法の確立			VFMガイドライン等への反映
有識者ヒアリング	3/29（本日） 事業推進部会	学識経験者 コンサル企業等	自治体職員 民間企業等 事業推進部会

PFI事業の多様な効果を測定するロジックモデルのイメージ

【新たな取組】ロジックモデルを活用した定量的評価指標の標準化のイメージ

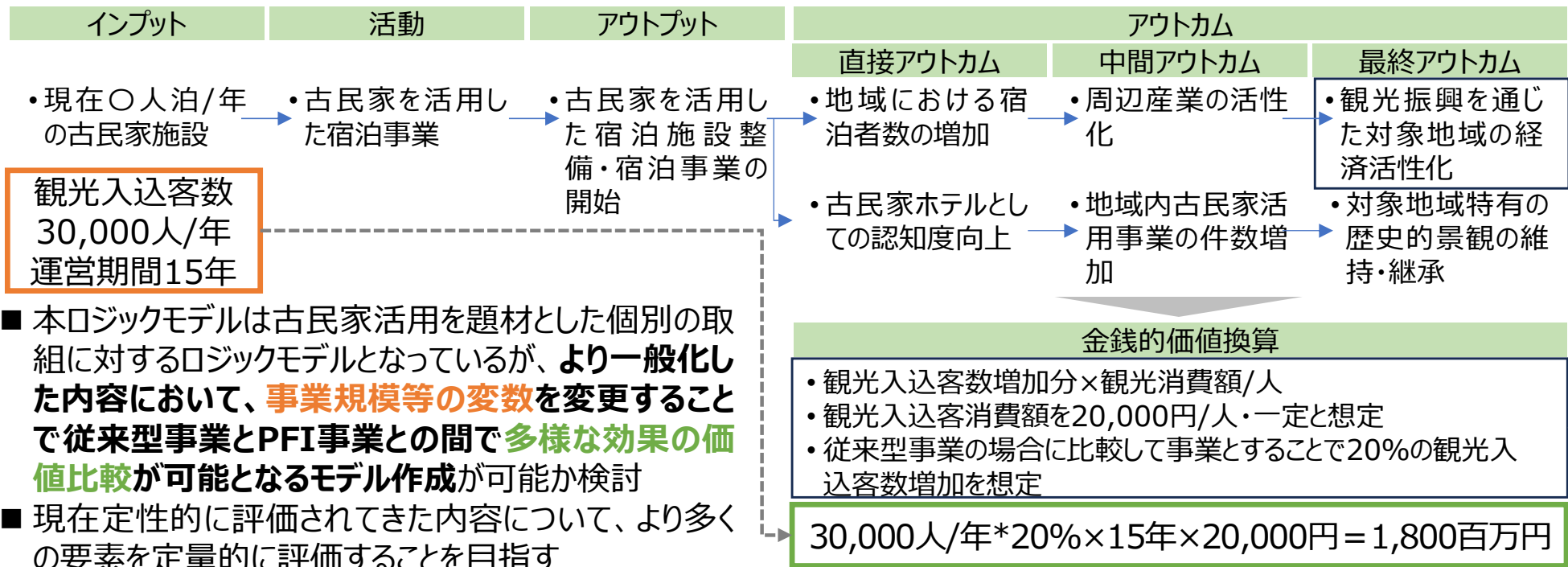


■ 助言いただきたいポイント

- 多様な効果の標準化の切り口 (事業目的・事業分野等)
- 金銭的価値換算において参考となる取組

(参考) ロジックモデルによる金銭的価値換算のイメージ

「【地方公共団体等向け】まちづくり分野におけるソーシャル・インパクト・ボンド (SIB) の導入に係る手引き (国土交通省都市局まちづくり推進課)」を参考に作成



- 本ロジックモデルは古民家活用を題材とした個別の取組に対するロジックモデルとなっているが、**より一般化した内容において、事業規模等の変数を変更することで従来型事業とPFI事業との間で多様な効果の価値比較が可能となるモデル作成**が可能か検討
- 現在定性的に評価されてきた内容について、より多くの要素を定量的に評価することを目指す

多様な効果を測定するロジックモデルの活用方法

【モニタリング・事後評価への活用】

- 標準ロジックモデルの提示により、事業選定後においても**事業者の提案や事業内容をもとにロジックモデルを修正していく基盤**を作ることができる。
- モニタリング時に追加効果を加えることで、事業内容にマッチしたロジックモデルとして活用していくことが可能となる。
- ロジックモデルの内容を官民間で共有しながらモニタリングを行うことで、目的としている業務が遂行されているか、**どのような追加効果が発揮されているか共通意識**を持つことができる。
- 最終的なロジックモデルの効果を確認することで、**事業の事後評価を容易**にする。

モニタリングによるロジックモデルの修正イメージ

